

ご挨拶

令和七年七月

曹洞宗 奕葉山 昌伝庵

住職 今成 幸裕

副住職 今成 健二

試練だらけの人生

檀家さんから色々悩んでいるお話をお聞きすることがあります。

多いのは人間関係の悩みで、家族の事、嫁姑の関係、親族間の事、職場での事……。これらがストレスになって夜も眠れないほど苦しんでいる方もおられました。

「世の中はズルくていい加減な人がうまく世を渡り出世しているのに、ズルをせず真面目にしている正直者は損をしている。」「いじめる人は楽しく学校生活を送っているのに、いじめられている人は辛くて死にたい気持ちになっている。」

教員をしていた私は『いじめは絶対に許さない』と、かなりの正義感に燃え熱血指導に当たっていた事を思い出します。

こういうことは世の中では日常茶飯事で、政治の世界でも世のために良い政治をしようとしても、それで不利益を被る者はその政策を邪魔したり妨害したりしてくるというようなことも聞きます。

私も今迄の人生の中でこういった理不尽な事には何度も出会い、目にし、また

体験してきました。こんな世の中ですから、なかなか良くはならない訳です。

しかし、お釈迦様は、『こういう損や得は目に見えている見せかけのものである。

良い暮らしをしていても、それが悪の延長上にあるのなら悪の因果応報に会うし、ひどい暮らしをしていても善行を修する者にはいつか善の因果が巡り救われる』と説かれます。

これがいつ現れるのかは分かりません。この世で現れるのか、死んでからあの世であるのか、はたまた次の来世であるのか。しかし必ずあると説かれます。

悪いことをした輩にはすぐにバチが当たればいいのに！ と思いたくなるものですが、なかなかそうはいきません。

それでも、善を修する者は、悪に耐えて潰されずにその試練を越えていかなければなりません。実に辛く嫌で大変な事ですが、これが自分を鍛え成長させてくれる先生なのだと思います。

こういう善悪の種が少しずつ積み重なってその人の「業」となり因果応報がいつか自分に巡ってくるといわれます。

ただし、善果を期待して、利害関係や損得勘定の上でする行いは善とは言えません。誠心誠意心から世の為人の為の善行でなければ本当の功德にはなりません。

死んでから閻魔様の前で審査されるのは、結局はその人の「生き方」が問われる訳です。地位や名誉やお金の有る無しではなく善と悪の業が問われると道元禪師も説かれます。今だけの損得を問題にせずに、大宇宙の法則に則った正しい生き方をしていくことが大事なのです。

それにしても、皆がお釈迦様の教えを実践していたら、前述した様な酷い人間関係にはなっていないかったことでしょう。

良い世の中・人間関係にするには、それぞれに正しい生き方や考え方、言葉使いや態度等の日常的な生活態度（八正道）を正しく修して行かなければならないとお釈迦様は説かれます。（坐禅も含む）

本山研修会について

例年行われておりました、曹洞宗第二宗務所主催の本山研修会は一年おきの開催になり、今年はありません。来年度に永平寺参拝に行きます。

庫裡の建設に向けて

昌伝庵住職 今成幸裕

このたびは令和九年の庫裡建設に向け、ご寄付の勧募をさせて頂いておりますが、既に完納または分割にご協力を頂いております方には誠に有難く、厚く感謝申し上げます。

昌伝庵は檀家の皆様には御先祖様を祀る菩提寺ですが、実は住職の私にとっては菩提寺ではありません。

父の前住職は、家が貧乏で二男だった為に寺に預けられた縁で坊さんになったので、私の父母の先祖の墓は市内の別のお寺さんにあります。

私事ですが、職業選択の自由がありながらも昌伝庵で生まれ育った為に、僧侶になることを決め、人生・私財を昌伝庵に捧げて参りました。

庫裡の建設に向け、寺は住職個人の財産ではありませんが、住職も住まわせて頂くため一般の住宅建設する位の寄付をするつもりであります。

つきましては、檀家の皆様にも、庫裡の水事情と建設について御理解賜りたく、何卒特段のご配慮ご協力を切にお願い申し上げる次第です。

懐かしの写真 No. 10

令和2年7月号がNo.1でしたので ↓
それから数える、今回はNo.10になります。

東日本大震災では位牌堂の仏具などが落ちて散乱しました。この教訓から、火災予防の面からも各家の蠟燭立てや香炉などの撤去を考えさせられました。(皆様にご協力をお願い！) 位牌堂の床も基礎が不安定になり、補強工事をしました。



平成23年2月、現副住職は福井の大本山永平寺に上山し26年5月まで過ごしました。



平成23年12月、永代供養等建立。



↑ 魂入れの儀式。

門に入って左側の観音様の下に、永代供養の納骨堂を設置しました。墓終い等による、時代の要請に応じたの事でした。



平成24年3月。前年の大震災で位牌堂の床の基礎(土台)が緩み、急遽床の補強工事をする事にしました。経費は約200万円で、これは住職が負担しました。各家の位牌の移動は、寺報での呼び掛けにより集まって下さった檀家の方々が手伝って下さいました。それまではブカブカと軋んでいた床が、頑丈になりました。